

# あのまちこの街

がんばる商店街の現地取材レポート 連載No.1



## 発寒北商店街振興組合 (札幌市西区)

http://www.hatukita.com



「ぎんなんくん」

### まちを担うのは誰か？ 商店街の役割を宣言

#### 新連載の旗手ハツキタ

「商店街はなぜ減るのか」という書籍が版を重ね、今でも中小書店にまで平積みされているようだ。この挑発的なタイトルを突きつけられた商店街関係者の多くは、沈黙し、あるいは「状況が悪いのだから仕方ない」「とたつとぶるくのみ」一方、そんな「状況」を克服するため、知恵と熱意を振り絞って反撃を試みる商店街も確かに存在する。この連載では、そのような意欲的な商店街にスポットライトを当て、その力の源泉は何か、どんなプロセスで意思決定したのか、などを探ってゆきたい。

旗手は、近年、本誌でも極めて露出度の高い発寒北商店街振興組合(以下、「ハツキタ」)。

ハツキタは、NPO法人等や近隣商店街との合同事業も含め、年間を通して多彩なイベントを仕掛けて、本誌を毎号のように飾っている。さかのぼれば、平成21年、北海道で初めて「アトム通貨」を導入したこと、22年には「いつてみたい商店街」&「お店北海道表彰」商店街大賞を受賞したことは、特に大きなニュースであった。3月号掲載の通り、本年2月には経済産業省の地域商業再生事業に採択され、ついにハード面でも、コミュニティ機能再生の重要な役割を担う

#### 商店街の役割を決める

ハツキタを率いるのは、道振興副理事長でもある土屋理事長。自らも、普通の洋品店から業態転換し、着物販売・レンタル・フォトスタジオを営む(近日常転予定)。そのピンク色の目立つ外装は、「個性も変わらなければならぬ」と主張しているように見える。

土屋理事長によれば、まず重要なのは、「商店街の役割」を決めてしまうこと、そして宣言してしまうことであつたという。そしてその役割とは、「コミュニティの担い手」であり、目指すのは「40年後、さつぱろ一住みやすいまち」。

この地区に商店が立ち並び始めたのは昭和30年代後半という。次々に商店が開業し、昭和46年には商工振興会が、同52年には「発寒北商店街振興組合」が設立された。平成に入り、組合が中心に

#### 目指すものを宣言

土屋理事長は考えた。商店街は、今までもずっと、商売するだけでなく、地域を担ってきた。もし商店街が負けてしまったら、誰がまちを担うのか。町内会か、行政か、NPOか。しかしいずれも一長一短があり、得意不得意、力の限界もある。それに横の連携が十分とは言えない。このままでは、

住みにくいまち、仮に便利であつても生活感のないまちになってしまう。本間にそれでいいのか。商店街が「コミュニティの担い手」の中心にならなければいけない。それも、個々の業者ではなく、「商店街」という組織でなければならぬ。それが商売の前提にもなる。それなしには商売



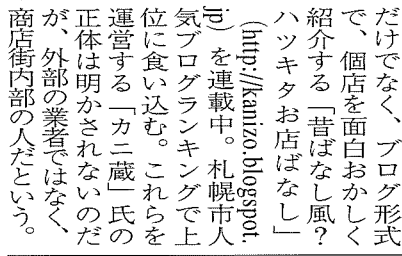
ハツキタ茶屋 ぎんなん通り

明確な「意図」を持つて行うことが重要という。土屋理事長は、商店街振興組合の「宣言」を、その後の具体策立案は各論にすぎない。ただし、

も成り立たない。このように考えた土屋理事長は、「さつぱろ一住みやすいまち」を目指すことを「宣言」した。宣言してしまえば、それがスタートラインになる。スタートしなれば何も変わらない。「言い切つてしまふ」ことが大事だつたという。スローガンにしてしまえば皆納得する。

動き出したハツキタの「地域密着」活動については、本誌に繰り返し掲載されている通りである。例えば「廃食油の回収」では、この地区で多くの団体が参加する中、商店街は圧倒的な実績を誇る。このとき、ハツキタのキヤラ入りECOメモ用紙を小学生に渡すといった工夫があつた。ちなみにアトム通貨も、金額はわずかであつても子供たちには喜ばれる効果が大いという。

ハツキタでは、「トイレ清掃」「職業体験」「スノーキャンダル」など、地元の小中学校、PTA等と連携したイベントも目立つ。多くの場合、企画を持ち込むのは、商店街の側。業者が学校にアプローチしてもすぐに理解が得られないこと、多いが、ハツキタはその伝統や、地域密着度から、厚い信頼を得ているのである。地元からの



ハツキタ茶屋 ぎんなん通り

「安心窓口」の思惟ぬ

ハツキタのホームページ( http://www.hatukita.co.jp )は、充実したコンテンツをわかりやすく整理している。単なる商店街の紹介ではなく、「地域情報の総合サイト」というコンセプトも明確。注目すべきことは、情報の鮮度、頻繁な更新である。更新されないサイトは閲覧されなくなり、よって効果が低下し、さらに更新する意義も低下する、という悪循環に陥る。ハツキタのサイトは、毎月のようにあるイベントをきちんと紹介。それだけでなく、ブログ形式で、個店を面白おかしく紹介する「昔ばなし風? ハツキタお店ばなし」( http://kanzo.blogspot.jp )を連載中。札幌市人気がプログラミングで上位に食い込む。これらを運営する「カニ蔵」氏の正体は明かされないのだが、外部の業者ではなく、商店街内部の人だという。

建設業者も担い手に

さらに地元からの信頼によって成り立っているのが「ハツキタくらしの安心窓口」。悪質リフォームなどが問題になる中、地元の安心できる建設業者等々をまとめて紹介する窓口を、商店街が担う。相談も見積も無料の上、事後も適正な価格・仕事であつたかを管理するという。手がかる事業と思われたが、成果は現れている。商店街が窓口になった効果はやはり大きかつたという。

「安心窓口」の思惟ぬ

内部だからこそ、手造り感があり、また低コストで更新が可能なのだろう。理事長自身もハツキタやアトム通貨の情報を高頻度にブログ掲載し、「継続は力」を体現する。紙の「ハツキタかわら版」は新聞折込され、こちらも継続している。なお、イベント情報は町内会の回覧板でも周知され、ここでも地域からの信頼が活きる。

### ご存知ですか? 厚生年金基金

- 従業員の増大する退職金に備えて
- 経営者・従業員の豊かな老後に備えて

- ・掛金総額の約3倍の退職年金が受けられます
- ・中途退職(脱退)でも、退職金の内枠として支給できます
- ・国の老齢厚生年金より30%以上多く支給されます

1.8%の事業所負担でOKです

はいつて安心 堅実信頼の厚生年金基金

### 北海道商店街厚生年金基金

札幌市中央区北1条西2丁目・北海道経済センター7F TEL(011)242-8410 FAX(011)242-8420 E-mail:pf-1848@dream.ocn.ne.jp

# 企業再生

- 販売促進、コスト低減、作業効率化などにより、収益の向上を図り、事業そのものを建て直すことを目指します。
- 経験豊富な中小企業診断士が、状況を的確に把握した上で、具体的な改善案をご提供いたします。
- 適正料金です。まずご相談ください。

一般社団法人 中小企業診断協会 北海道

企業再生・経営改善支援室

〒060-0004 札幌市中央区北4条西6丁目 毎日札幌会館4階

TEL: (011) 231-1377

URL: http://www.shindan-hkd.org/